

令和4年3月1日

保護者の皆様

知立市立知立中学校長

尾 崎 淳 一

「令和3年度アンケート分析」と「令和4年度に向けて」

※「達成されている」「ほぼ達成されている」を肯定的評価として、

「あまり達成されていない」「達成されていない」を否定的評価と捉えての分析

I 確かな学力を育む教育・・・設問1～3

今年度は、新型コロナウイルス感染症が終息していないため、保護者の授業参観が昨年度同様に思うように実施できなかった。また、生徒同士の話し合いや発表に一部制限がある中で授業を行わなければならなかった。新学習指導要領が施行され、授業改革に取り組んできたが、その途中経過を見ていただく機会がなかったことが残念である。

課題の質と量については、前年度までは問題集を一斉に購入し、毎日行っていたが、今年度より各家庭で選択できるように変更した。そのことも含めて、保護者、教員共に昨年度より大幅に低い評価となった。結果を真摯に受け止め、改善していかなければならないと感じている。

I C Tの活用に関しては、保護者、教員共に高い評価となっていた。来年度も授業づくりに有効に活用していきたい。

＊感染状況を踏まえ、適切に授業公開ができるように努めていく。

＊意見交換などタブレットを有効活用し、学び合いによる「深い学び」の実現を図る。

＊タブレットを有効に活用するなど含め、家庭学習の充実に向けて検討していく。

II 豊かな人間性を育む教育・・・設問4～7

昨年度と比べて大きな変化は見られなかった。その中で今年度も「いじめへの対応」については、昨年度と同様に高い評価を得た。今後も、教育相談や日頃の様子などから、いじめにつながる小さなトラブルを見逃さず、迅速かつ適切に対応していきたい。

思いやり・優しい心については、昨年度同様に保護者、教員の高評価が90%を超えた。生徒自身の評価を20%以上うわまわっている。周りの大人からみての高評価であるにとらえ、来年度も道徳教育に力を入れ、生徒が活躍する場を積極的に作り出すことで、生徒の自己肯定感をより高めていきたい。新型コロナウイルス感染予防のため、大きな声で挨拶ができず、コロナ禍で、あいさつへの意識に高まりがみられた。挨拶についてはもの足りなさがあり、コロナ禍での課題である。

＊いじめ防止基本方針に従い、小さなトラブルを見逃さず、適切な指導を行う。

＊地域に愛される知中生をめざし、生徒の自治を大切にした生徒指導に努める。

＊生徒の活躍する場を大切にし、取り組みを積極的に認め、自己肯定感を高められるようにする。

＊コロナ下であっても挨拶を始めとする、社会におけるルールやマナーを大切にしていけるように努める。

Ⅲ 健康と体力を育む教育・・・設問 8、9

コロナの感染予防から、一年を通して部活動や保健体育の活動内容に制約があり、特に部活動では、十分な活動時間を確保できなかった。「体力づくり」の保護者評価においても、昨年度に比べ7%ほど低くなっている。制限のある中ではあるが、感染対策をしながら、まずは保健体育の授業をより工夫して必要があると考える。

「規則正しい生活」では、感染予防のための検温や手洗い、手指消毒の徹底など、一人一人が心がけて生活することができた。しかし、遅くまでゲームをしていることによる睡眠不足やSNSの課題について今後検討が必要である。

- * 感染予防を優先しながらも、活動の仕方を工夫することで、体力づくりの機会を確保する。
- * ICTなどを有効活用し、技術の向上や体力づくりに対する意欲の向上を図る。
- * 感染状況や熱中症情報など、常に最新の情報を得るように努め、適切な対応を行う。
- * 保健だよりやSNS講習会などを利用し、基本的な生活習慣の大切さを伝えていく。

Ⅳ きめ細やかな指導の充実・・・設問 10、11

「チームとしての有効的な指導」については、生徒の80%以上に高評価を得ることができた。制限がある中で、教員と生徒が互いに知恵を出し合い、学年で行事を作り上げ、その結果多くの生徒が活躍する機会があったからだと考える。

生徒の個性に応じたきめ細やかな指導については、生徒、教員で昨年度の評価を若干上回っている。今後も個に応じた指導の充実を心がけていく。

- * 教員同士が連携を図り、円滑な学年・学校運営を行っていく。
- * 少人数指導やICTを効果的に取り入れ、個に応じた学びを充実させる。
- * 生徒の学習状況や心の状態を敏感につかみ、チームとして対応していく。また、必要に応じてスクールカウンセラーや適応指導担当教員などを積極的に活用する。

Ⅴ 学校、家庭、地域との連携の推進・・・設問 12、13

感染予防の観点から、授業参観や学校公開週間の実施が中止や縮小となり、保護者の方に学校の様子を見ていただく機会が少なかった。感染状況に左右されてしまうが、予防を徹底しながら、できる限り学校での学びの姿をみていただけるようにしていきたい。きずなネットや学校ホームページ等については、保護者、教員共に90%の評価を得ることができた。家庭訪問や懇談会の予定などネットによる回答を実施してきた。来年度も更にネットの活用を検討することで、お知らせや生活の様子を丁寧に配信し、利便性を高め、迅速な情報共有となるようにしていきたい。

- * 感染対策を重視した上で、授業参観や学校行事などの参観について検討する。
- * ネットの有効活用により、学校と保護者、地域との情報共有を充実させる。
- * 学校、学年便り、HPなど、紙での配付を減らし、ネットでの配信を進めていく。